

第10回 富士山支部勉強会 “地域包括ケア実現に向けた統合医療への期待” (2019年9月23日)

悪天候のなか、静岡文化芸術大学の河村洋子先生にお越しいただき、講義とワークショップが行われました。河村先生は地域包括ケアシステムや社会的処方箋分野の基盤になるヘルスコミュニケーションを専門としております。ヨガも学んでおられるので、その見地からお話頂きました。いま、日本では医療や福祉など社会の負担が増える一方、国の制度やインフラがおいつかず、保険外サービスへのニーズが高まっております。必然的に自治体など地域のコミュニティを巻き込まなければなりません、地域にはいろんな方がおりますので、温度差もあってまとまりにくいのが現場の悩みとして多いようです。また、企業レベルでは現場と管理者の分断、個人レベルでも心と体の分断などが問題になっております。高度経済成長あたりから効率化重視で個人主義の風潮が強まり、ますます分断が助長されています。医療でも物事を細分化して専門性が高くなるにつれ、視野は狭くなり、当たり前なのに気づきにくくなっていることが問題視されています。そこで重要なのは分断されたものをつないでいくことであり、よりよいコミュニケーションにより血流改善をしていくことが求められております。ワークショップでは、地域包括ケアに関わっている5名の方々が円となり、それ以外の方々がその周りで傍観しながら質問やコメントを考えました。その後、2人ペアで振り返りあい、4人となり、最後は全員でシェアしました。それにより本音が引き出しやすくなり、みんなが自分事として参加でき、一体感が出たように感じました。

最近では社会はますます不安定で不確実、複雑で曖昧となっており、PDCAサイクルの無力化が指摘されます。変化に対して柔軟に対応すること、行動しながら考えていくことの重要性が増しています。その中で、お互いの関係性、しくみを築いていくのが地域包括ケアであり、そうした社会モデルと医療モデルを融合するのが統合医療の役割とありました。

今回、さまざまな職種の方と交流することで化学変化が生まれ、いろんな気づきわいてくる勉強会でした。ややもすると毎日同じ人との関りになってしまい、気づかずに考え方も偏りがちです。そうした中、新たなコミュニティに参加し、膝をつきあわせた交流をすることで、新しい気づきやアイデアが生まれることを実感しました。当支部は参加者の多様性が富み、距離感の近い場になりやすいため、今回学んだコミュニケーションスキルを活用することで、人と人がつながる場になればよいと感じました。

次回は4月18日～19日に日月倶楽部にて“医療×養生×社会(仮)”というテーマで行われます。講師は鍼灸師であり未来工学研究所の小野直哉先生等をお呼びします。これからの社会について一緒に考えましょう。

